

司式:橋本 義武
奏楽:吉田千鶴子

前奏:「来ませ聖霊、主なる神よ」(D. ブクステフーデ)

招詞:わたしは知っている。わたしを贖う方は生きておられ、ついには塵の上に立たれるであろう。(ヨブ19:25)

讃美歌:351「聖なる聖なる」

交読詩編 51. 12-19

- 12 神よ、わたしの内に清い心を創造し/新しく確かな霊を授けてください。
13 御前からわたしを退けず/あなたの聖なる霊を取り上げないでください。
14 御救いの喜びを再びわたしに味わわせ/自由の霊によって支えてください。
15 わたしはあなたの道を教えます/あなたに背いている者に/罪人が御もとに立ち帰るように。
16 神よ、わたしの救いの神よ/流血の災いからわたしを救い出してください。恵みの御業をこの舌は喜び歌います。
17 主よ、わたしの唇を開いてください/この口はあなたの賛美を歌います。
18 もしいけにえがあなたに喜ばれ/焼き尽くす献げ物が御旨にかなうのなら/わたしはそれをささげます。
19 しかし、神の求めるいけにえは打ち砕かれた霊。打ち砕かれ悔いる心を/神よ、あなたは侮られません。

朗読聖書①イザヤ書 61. 1-4

◆貧しい者への福音

- 01 主はわたしに油を注ぎ/主なる神の霊がわたしをとらえた。わたしを遣わして/貧しい人に良い知らせを伝えさせるために。打ち砕かれた心を包み/捕らわれ人には自由を/つながれている人には解放を告知させるために。
02 主が恵みをお与えになる年/わたしたちの神が報復される日を告知して/嘆いている人々を慰め
03 シオンのゆえに嘆いている人々に/灰に代えて冠をかぶらせ/嘆きに代えて喜びの香油を/暗い心に代えて賛美の衣をまとわせるために。彼らは主が輝きを現すために植えられた/正義の樅の木と呼ばれる。
04 彼らはとこしえの廃墟を建て直し/古い荒廃の跡を興す。廃墟の町々、代々の荒廃の跡を新しくする。

朗読聖書②ヨハネによる福音書 14. 15-19

◆聖霊を与える約束

- 15 「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。
16 わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。
17 この方は、真理の霊である。世は、この霊を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない。しかし、あなたがたはこの霊を知っている。この霊があなたがたと共におり、これからも、あなたがたの内にいるからである。
18 わたしは、あなたがたをみなごにはしておかない。あなたがたのところに戻って来る。
19 しばらくすると、世はもうわたしを見なくなるが、あなたがたはわたしを見る。わたしが生きているので、あなたがたも生きることになる。

祈祷

神さま、聖名を褒め称えます。今朝も私たちをここに呼び集めてくださり、あなたに礼拝を献げるよう招いてくださったことを感謝いたします。

先週のペンテコステの礼拝では私たちの教会に受洗者が与えられました。感

謝いたします。

神さま、私たちの犯した罪を懺悔いたします。どうか私たちをあなたに従う道へと呼び戻し導いてください。世にあって私たちには様々な思い悩みや不安、苦しみがあります。それはこの世界にある大きな悲慘や暴力とつながっています。あなたより委ねられた人々の働きの価値は低くされ、人間の尊厳が脅かされています。この時代にあって私たちの目を開き、私たちのまなざしをあなたの御業へと向けてください。

これからあなたがお立てくださった説教者を通して御言葉の説き明かしをいただこうとしています。説教者を力づけ、私たちの耳を開き、あなたへと向けてください。

礼拝後には定期教会総会を開こうとしております。その場にあなたが臨んでくださり、この教会があなたの御旨に従う道を歩めますように、どうかお導きください。主イエス・キリストの御名を通して祈ります。アーメン。

讃美歌54「聖霊みちびく神のことば」

説教 「真理と命の霊を受けて」 水谷 勤

この主日も信濃町教会の皆さまと共に御言葉を聞くことが赦されます幸いを心より感謝しております。先週はペンテコステの主日、聖霊降臨の日を迎え、今日は三位一体主日を迎えています。今日も豊かな聖霊の働きを覚え、聖霊が主の御心である御言葉を私たちに新たな理解を与えてくださり開いてくださるよう祈り求めつつ、与えられました聖書の箇所を見ていきたいと思います。先ほど朗読されました旧約と新約の聖書の箇所から、今日私たちに必要な御言葉を共に聞いていきたいと思います。

今日の旧約聖書の箇所は、イザヤ書 61 章からです。このイザヤ 61 章は、実は同じイザヤ書の中の 42 章と共に新約聖書の中にも引用されていて、新約に大きな影響を与えている箇所と言われます。よく福音書の場合ですと、例えばマタイとルカの共通した記事について比較してその違いから特徴を掘りだすということをしますけれども、これらの二つの箇所についてもそのように見ることができると思います。

今日の 61 章では冒頭に「主はわたしに油を注ぎ、主なる神の霊がわたしをとらえた」とあります。主の霊に捉えられた人の働きについて予期し、そして特にこの“良き知らせ”、また“解放を告知させるために”ということが書かれていることがまず目に飛び込んできます。また受け身で書かれているということは、これはどこまでも主体が自分ではなく主の霊によるのだということ。そして大切なこととして、“知らせる”ということや、“告知する”ということが単に言葉の上にとどまっているということではないということです。

この 61 章はすでに書かれていた 42 章をいわばお手本のようにして書かれていると言われています。しかし興味深い点は違いがあって、その強調点が変わってきています。42 章の方の特徴的な言葉をあげると、例えば、これは新約(マタ 12:18-21)にも引用されていますが、「彼は叫ばず、呼ばわず、声を巻に響かせない。傷ついた者を折ることなく、暗くなっていく灯心を消すことがない(42:2-3)」とあります。傷ついた者、また希望を今にも見失いそうになっている者に対して、細心の注意を払いながら配慮している、ケアをしている、そういう御言葉であることが分かります。詩的な表現です。言葉の上では、しかし「折ることはしない」「消すことはしない」と、“～しない”という言葉にとどまっています。それに対して今日の 61 章の方は 1 節の後半に「打ち砕かれた心を包み」という言葉にあるように、より積極的に弱った者を労り、癒しの業を為さっています。続く 2 節後半にも「嘆い

ている人々をなぐさめ」とあります。3 節の中盤にも「嘆きに代えて喜びの香油を、暗い心に代えて賛美の衣をまとわせるために」とあり、この「包み、慰め、香油を塗る」という、そういう人物であることが描かれています。これを、例えば新約聖書の中でどのような場面と似ているだろうかと思ひまして、あの「善きサマリア人」が道端に倒れている人に対して、自分にできるだけのことを為した、その様子(ルカ 10:30-37)を思い出すことができると思われました。それほどに積極的な癒しの行為が為されている、そういう人物であるということがこの 61 章に書かれています。そしてそれはこの箇所が書かれた時代と関係しています。

この時代は旧約のイスラエルの民にとって、度重なる困難な時代であったと思われれます。バビロンの王がバビロン捕囚の解放を宣言し(エズ 1:2-3)、イスラエルの民は夢にまで見た祖国へと帰ることができたのですが、しかしそこから再建は容易ではありませんでした。人々は貧しさに加えてさらにお互いの間にも折り合いを巡っての対立などが生じ、混乱とまた失望の時期であったと言われています。その中にあって、そういう状況にあって、混乱の中にあって主に捉えられたその民の指導的な立場にある人は、今神さまに用いられようとしています。そしてその為す働きというのは、ちょうどあの新約の「善きサマリア人」の姿のように、“倒れている者がいれば、できるだけのことを為して助ける、そのことこそが御心である”と告げられてそれを為しているのです。ですから時代の状況に応じて、御心を知った者に求められているというその召しがあり、この混乱の中にあるその時代状況においては、まさにそのような積極的な愛の業が為される必要がある、そのことがこの 61 章に告げられ、そして私たちにも伝えられていると言えます。

ある時、ある教会付属の幼稚園であの「善きサマリア人」の話をしたことがあります。「善きサマリア人」の話は、最後の場面では「誰がこの追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか」という問いかけがなされ、そして「行ってあなた方も同じようにしなさい」と語られるその話でありますけれども、子供たちに同じ質問をしましたところ、子供たちは元気よく「誰がその人の隣人になったと思いますか」という質問に対して屈託のない笑顔で一斉に、「イエスさま」という声が返ってきました。

考えてみればその通りだと思います。「善きサマリア人」のその像をイエスさまと捉えることから始めるということ、今日のイザヤ 61 章の内容で言えば、人々を労り、包み、癒す、そういう指導者のことが書かれています。で、時代状況から言えばそれは当時のユダヤ主義的な風潮と対峙しているということなのです。顧みて今日的に私たちが考えた時には、この聖書の箇所がこの世の状況と激しく対立しているということを考えさせられはしないでしょうか。本来であれば労りが必要で治療を受け癒される必要のある人々が、より苦しみ、より命を脅かされる立場にされていくという状況について、今日も聖書は私たちに問いを発してはいないでしょうか。

続いてこの箇所には、この指導者がそのように導かれる、そして導かれる人々は何と呼ばれているかというところ、正義の樹と呼ばれるところと 4 節の直前の箇所に出てきます。「正義の樹」、そしてその「植えられた木はやがてこの復興を目指している」ということが告げられています。“復興を目指す”ということですから、堅固なイメージであれば「神殿」であるとか「塔」の塔」というそういう喩えでも良さそうですが、しかしここでは生命のある植物の喩えで語られています。

「樹の木」は材質が固いために強い風が吹いても耐え、そして成長すると大木になります。また昔から人々は聖書の中では、この「樹の木のところに祭壇を築き、礼拝の祈りの場所とした(創 12:6-7「モレの樹の木」)」とありますので、そこは単に石やレンガで作った建物と違って、命が息づくところ、そして人々の信仰が息づくところ

ろ、その礼拝共同体の喩えということが出来ます。また元の言葉で見るとここは複数形で書かれています。正義の樹の木々のことです。“そこに木々がある”ということとは、“そこに『生命生態系』がある”ということでもあります。

以前、ケニアのある若い牧師と会い話をすることがありました。彼は自分の出身の国の、しかも自分の出身の地域のことを熱心に考えていて、彼は“何よりも豊かな緑が必要なのだ”と、そして“木々が必要なのだ”と彼は訴えていました。そうすれば“木々があればそこに鳥が宿り、昆虫や微生物も含めて、そこに命を育むのだ”と彼がそのことに信念を持って訴えていました。そして彼が教会人としてそのように地域のことを深く考え、その生態系のことをごく自然な形で自分たちの祈りの課題であるとする姿が非常に強く印象に残っています。そのことから思い出させられるのは、私たちは忘れがちかもしれませんが、“私たちは被造物である。そしてそうであるならば、被造物世界全体のことを同じように考える必要がある。”それは、本来は当然のことなのかもしれません。

そういう意味での思い出すのは、例えばローマ 8 章(19-27 節)のところでパウロが“被造物全体の呻きを記し、そしてそれに呼応するような聖霊の呻き、執り成し、その祈りがある”ことを記しています。“被造物全体の連帯、その心が与えられる。それがまさに聖霊によって動かされた心”、ということが告げられているのだと思います。あるいはまたエゼキエル書の中でこのように、11:19 にこうあります。「わたしは彼らに一つの心を与え、彼らの中に新しい霊を授ける。わたしは彼らの肉から石の心を除き、肉の心を与える。」と、つまり“石のようではなくて、脈打ち血の通い命あるものとしてそのことを覚えて、そのようにさせられる霊の働きがある”と約束しています。

そう考えると聖書は私たちに命について改めて考えさせ、そして温かい命が通う者としての連帯を私たちのうちに取り戻そうとさせているのではないのでしょうか。そしてこの今日の箇所は「正義の樹の木」というのです。特徴ある言葉であると思います。「正義」ということでありますから、私たちの地上におけるあらゆる不義に対しての「正義の樹の木」です。人々の命と、そして被造物の命、それをいとも簡単に大量に破壊するこの世に対して、私たちは「正義の樹の木」であると、その自覚を呼び起こされています。主は創造主として人々の命、それに深く関わりを持たれ、それを限りなく尊いものとし、そして被造物と共にそれが回復されることを御心とする、そのことを今日また聖霊を通して私たちにも語りかけられているのではないのでしょうか。

命に関わること、生きることに関すること、それらの観点から今日与えられた新約聖書の箇所、もう一度先ほど朗読された箇所を見てみたいと思います。「生きる」という言葉が、ヨハネによる福音書 14:19 に出てきます。「あなた方も生きることになる」とあります。主イエスがどのような意味でこの言葉を言われたのでしょうか。先ほど朗読された箇所をもう一度思い起こしながら見てみたいと思います。この 14 章の箇所、また直前から見ると、ここではいわゆる『最後の晩餐』の場面が描かれていて、そしてすでに裏切ることになっていたユダがそのことを告げられて彼は出て行きました。闇の中に出て行きました。そして弟子たちはその後起ころうとすることに怯え、緊張も高まり、そういう弟子たちに対して主は「心を騒がせてはいけない」と言われます。そして「弁護者なる霊」が与えられ、「あなた方を決してみなごにはしておかない」と約束されます。「弁護者」、この言葉は元の意味では「傍らに呼び起こされた者」、意味が広く特定することは難しいと言われているのですが、英語の聖書いくつかの訳では「カウンセラー(counselor)」とも訳されています。そのようにして私たちの傍らに立つ「真理の霊」が与えられている、そのような文脈で、主は「わたしが生きているので、あなた方も生きることになる」と言われます。この 19 節の言葉を少し詳しく見ると、「わたしが生きているので」とあります

けれども、元の表現では非常にシンプルに「わたしは生きている、そしてあなた方も生きる」とあります。

何か説明調で理由や理屈を明らかにしているというよりも、むしろ端的に、主イエスは「わたしは生きている。あなた方も生きる。」と言われるのです。弟子たちが、この先自分たちはどうになってしまうのかという恐れの中にあって、主は「わたしはある、わたしは生きている」、この同じ響きであると思います。世の闇が迫るような状況の中で、不安と共に神への信頼をくじくような、あの私たちへの挑発に対して、「わたしはある」(8:24「エゴ・エイミ」(ἐγώ εἰμι). 出 3:14「エヒエ・アシェル・エヒエ」(אֶהְיֶה אֲשֶׁר אֶהְיֶה)[私はある・～ところの・私はある]))、「わたしは現に生きている」と強く宣言される御言葉をもって主が語られています。そして「あなた方も生きる」という約束を、この世にあって生きる時には困難がある、しかし“この迫害を受けるような時にあっても、勝利者なるイエスと共にあなた方も生きる”と、その揺るぎない御言葉を与えられ、それによって弟子たちは明日を生きていくことができる。それは同時に“生きよ!”という主の御心が弟子たちに告げられ、弟子たちはそれを悟った時ではなかったかと、そのようにも思います。

当時この福音書が書かれた時代、この時代には教会がすでにできており、ユダヤ教の側から明確に異端とされて迫害を受けていました。教会の存続が危ぶまれていました。迫害の中で孤立し、真理を述べ伝えるどころか、自分たちの命さえ危ぶまれる中において、先ほどの「傍らに立つお方が」という約束の啓示を受け、目には見えないけれども「あなた方をみなしごにはしておかない」との語りかけのうちに教会は立っていくことができました。孤独の淵という状況であるからこそ、まさにそのような状況であるからこそ、見出されなければならない信仰の基盤が明らかにされました。

それは“主の十字架の後に聖霊を送ってくださった”ということです。陰府にまで降られた主がそこにおいて、生きることの全くの断絶を経験してくださったがゆえに、そこから私たちに「あなた方は生きる」と仰るのです。そして聖霊が今日も私たちにそんなことを教えてくださっています。また日本の教会にも示唆を投げかけていると思います。社会の中では、全体の中では日本の教会は非常に小さな種のような存在かもしれませんが、しかし孤立した中でも、主ご自身がまさにそういう状況の中であって親しく語りかけてくださり、「わたしはあるというもの」、「わたしは生きている、それゆえにあなた方は生きる」と大いなる励ましをもって私たちに語りかけ、またそれによって今日また新しい歩みを歩み出すことができるのではないのでしょうか。

この新しい週も主の御声に常に心を留めつつ共に歩んでいきたいと願います。お祈りをお献げいたします。

主なる御神さま、この主日も私たち一人ひとり赦され、この礼拝の恵みを与えられましたことを心より感謝いたします。混迷の時代にあつて主ご自身があの闇の断絶を経験され、「わたしは生きている」、「あなた方も生きる」と言われる主に深く感謝を献げます。私たち主に造られた者の命を尊ばれる御心、その愛に触れ、以前にも増して傷を包まれ、立ち上がらされた者として世に向かうことができますように導いてください。

「正義の樫の木」と私たち教会を呼んでくださる主よ、どうか主の礼拝の礼拝共同体として新たな成長をお与えください。世にあつて不義に対して正義を表す、その働きを担うことができますように、私たち信仰者に知恵と勇気をお与えください。

信濃町教会を牧される佃牧師のそのお働きをお支えてください。教会に連な

るお一人お一人が主イエスの御言葉と命を尊ばれるその御心に支えられますように。

本日礼拝後に行われる教会総会を覚え、教会の歩みが豊かな聖霊により支えられ導かれますように心を合わせ共に祈ります。

これらの祈りを、尊きわれらの救い主イエス・キリストの御名によってお献げいたします。アーメン。

讃美歌:352「来たれ全能の主」

献金・感謝(三木優)・主の祈り(讃美歌21 93-5A)

父なる神さま、主にある兄弟姉妹と共に礼拝を献げることが赦されましたことを感謝いたします。水谷先生の説教を通して豊かに御言葉を与えてくださり感謝いたします。あなたに生かされていること、聖霊が常に私どもと共にあることを覚えて、私たちがこの一週間をそれぞれの旅路の中で御言葉を糧として歩むことができますようにお導きください。

私たちは必要なものを与えられ主の僕として生きることが赦されていることを感謝いたします。今それぞれが与えられたものの中から感謝と献金の徴を御前に献げます。どうぞ祝して教会の御用のために用いてください。

主が教えてくださった主の祈りを共に祈り、新しい日々を迎えさせてください。

「主の祈り」…アーメン。

派遣:讃美歌 92「主よ、わたしたちの主よ」

祝福:われらの主イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しい交わりが、あなた方一同と共に、また私たちが心に留める一人ひとりの上に、限りなく豊かにありますように。アーメン。

報告:(1)社会委員会:夏の支援。夏物の衣料、冷感グッズ、保存の効く食料品、生活必需品などの支援のお願い。期間は6月1ヶ月間。支援特別委員会掲示板下の箱へ。(2)アフガニスタン難民親子への支援行事の案内、6/14日、礼拝後料理教室(参加費:3,000円)、3時半頃フルート・ヴァイオリン演奏会(参加費:1,000円)。

後奏:「幸いなる光、三位一体よ」(H. プレトリウス)